

令和4年度事業報告

事業実施総括

観光業界は、令和2年1月以来新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けてきたものの、令和4年6月以降、段階的な水際対策の緩和による訪日外国人旅行者の受入再開や全国旅行支援などの効果に加え、8月には約1年1か月ぶりにクルーズ客船「ぱしふいっくびいなす」が寄港したことや、1月には2年10か月ぶりに韓国からのチャーター便が運航されるなど、ようやく観光業にとって明るい兆しが見えはじめた。

その一方で、ウクライナ情勢の影響によるエネルギー価格や食料品などの高騰を受け、世界的な金融引き締めが行われるなど不透明感が漂う1年となった。

このような中、当機構としては、アフターコロナを見据え観光産業の再生に向けて、受け入れ体制の整備をはじめとした様々な取り組みを実施した。

具体には、観光客の宿泊利用促進を図るためアドバイザーによるコンサルティングや現地指導を行ったほか、韓国からの観光客の誘客促進を図るために、県、大韓航空、日本航空及び韓国旅行エージェンツ等と連携し各種誘客宣伝事業を実施した。また、知事の台湾トップセールスに同行し台湾の観光関係者に対する観光PRなどを実施し、台湾からの誘客促進に係る取り組みを行ったほか、本県観光を含めた産業振興に効果が高いコンベンション誘致及び教育旅行についても重点的に取り組んだ。

青森県観光物産館では、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策に十分配慮しながら、各種主催イベントや「machicotoba（マチコトバ）」での週末マルシェを開催し誘客に努めたほか、平日や閑散期のイベントスペース貸出促進や会議室の利用率向上と駐車場の増収を図るため、積極的な営業活動を実施するとともに、一層の経費削減を進め経営の効率化や収益拡大策に取り組んだ。

また、国際交流の促進を図るため、アスパム2階において外国人からの相談への対応や国際交流に関する各種情報提供を行ったほか、市町村や民間団体と連携し、外国人への日本語指導や日本語学習サポーター等の養成に取り組んだ。

このほか、県が実施する県内需要の回復に向けた対策事業を積極的に受託するなど、県と連携を図りながら事業を推進した。

〔公益目的事業〕

1 観光振興・青森県観光物産館管理運営事業

(1) 開発推進事業

① 観光開発推進事業

青森ねぶたの海上運行・花火大会をアスパムから鑑賞するプランやストーブ列車に乗車するプラン等を企画したほか、県内のDMOや各種事業者等と連携して、観光資源の発掘・磨き上げを行った。

② 宿泊施設魅力向上対策事業

観光客の宿泊利用促進を図るため、アドバイザーを活用し、宿泊施設の魅力向上策の検討及び改善実践を行った。

◆アドバイザーによるコンサルティング実績 4施設・延べ44回

◆成果発表会 令和5年3月17日

③ 教育旅行誘致事業

ア 教育旅行誘致促進連絡会議の開催

教育旅行誘致に係る取組みについての情報共有及び課題整理・解決に向けた検討を行うため、県内関係者による連絡会議を開催した。

◆開催日 令和4年7月13日

イ 教育旅行セミナーへの参加

本県への教育旅行誘致促進のため、各種教育旅行セミナーへ参加し、旅行エージェントや学校関係者へ教育旅行に関する情報提供を行った。

(ア) 東北教育旅行誘致セミナー（札幌会場）

◆開催日 令和4年7月6日

(イ) 東北教育旅行誘致セミナー（東京会場）

◆開催日 令和4年7月21日

(ウ) 全国修学旅行研究大会（東京都）

◆開催日 令和4年7月22日

(エ) 東北教育旅行誘致セミナー（大阪会場）

◆開催日 令和4年8月24日

(オ) 東北教育旅行誘致セミナー（名古屋会場）

◆開催日 令和4年8月30日

(カ) 東北教育旅行誘致セミナー（福岡会場）

◆開催日 令和4年9月13日

エ ニューノーマル時代の青森型 MICE プロモーション事業

〔(公財)むつ小川原地域・産業振興財団助成事業〕

ニューノーマル時代の MICE に対応したプロモーションを展開するため、そのツールとして、県内の世界遺産を活用した MICE プロモーション映像を制作し、青森県観光情報サイトに掲載したほか、県外の観光 PR イベント等において上映した。



(2) 情報発信事業

① 観光キャンペーン推進事業

ア 観光イベントガイドブックの作成

本県へ、より一層の観光客誘致促進、観光消費額の拡大を図るため、自然や食、温泉、祭り等、旬の観光情報を紹介する「あおり紀行イベントガイドブック」(以下「あおり紀行」という)を作成し、関係箇所への配布・PRを行った。

◆「あおり紀行」2022 夏・秋号

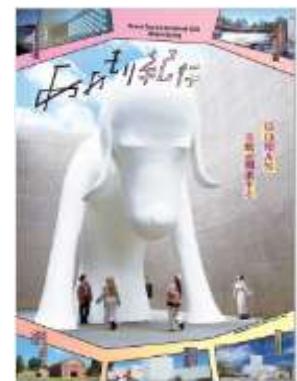
令和4年5月発行 13万部+電子書籍版

◆「あおり紀行」2022 冬・春号

令和4年10月発行 22万部+電子書籍版

◆配布場所

県内外交通機関・エージェント、観光事業者等
769か所



イ 観光イベント等への参画

ツーリズム EXPO ジャパンや青森県冬季観光プロモーション等の観光イベントに参画し、観光コーナーの設置やステージでの観光 PR を行った。

(ア) ツーリズム EXPO ジャパン

◆期 間 令和4年9月22日～24日

◆内 容 商談会・観光 PR ステージ

(イ) ハイウェイフェスタとうほく 2022

◆期 間 令和4年9月23日～24日

◆内 容 観光ブースの設置、観光 PR
ステージ



(ウ) 「元気！あおもり西海岸」観光キャンペーン

◆期 間 令和5年1月8日～9日

◆場 所 JR 上野駅

(エ) 青森県冬季観光プロモーション

◆期 間 令和5年1月16日～19日

◆場 所 JR 東京駅



ウ 青森県観光セミナーへの参加

首都圏からの誘客を促進するため、県が開催した旅行エージェント等を対象とした観光セミナーにおいて、本県観光コンテンツ等の PR を行い、旅行エージェントによる本県向け旅行商品の造成等につなげた。

◆期 日 令和4年11月9日

◆開催場所 目黒雅叙園



② 県外における誘客促進プロモーション事業（県委託事業）

ア 博多どんたく港まつりにおける PR

九州圏における本県の認知度向上及び同圏域からの誘客促進を図るため、福岡市内で開催される博多どんたく港まつり「お祭り本舞台」において、本県観光を PR した。

◆期 間 令和4年5月2日～3日



③ 観光情報ネットワークシステム運営事業
(県委託事業)

本県を訪れる観光客等が、観光情報をインターネットにより入手できるよう県・市町村等と連携し、青森県観光情報サイト「Amazing AOMORI」の運営・管理を行った。



④ 兵庫県との航空路線を利用した相互送客連携（県委託事業）

兵庫県全域をエリアとする地域連携 DMO である「ひょうご観光本部」と連携し、ホームページを活用した会員向けの広報活動を行った。

⑤ 青森県・道南観光キャンペーン推進事業（県委託事業）

ア 観光イベントガイドブック「あおもり紀行」増刷

青森県と道南の魅力発信及び誘客を促進するため、観光イベントガイドブック「あおもり紀行」を増刷し、JR 北海道管内の駅や道南自治体等へ配布した。

◆増刷部数 90,000 部

イ 青森県・道南周遊観光促進キャラバン実施

JR 東日本、JR 北海道管内の駅において、青森県・道南周遊観光を PR する観光キャラバンを実施した。

(ア) 青森県・道南観光 PR キャラバン首都圏①

◆期 日 令和 4 年 5 月 27 日：大宮駅
令和 4 年 5 月 28 日：池袋駅、上野駅、品川駅
令和 4 年 5 月 29 日：柏駅、赤羽駅

(イ) 青森県・道南観光 PR キャラバン首都圏②

◆期 日 令和 4 年 6 月 17 日：川崎駅、横浜駅
令和 4 年 6 月 18 日：八王子駅、立川駅、吉祥寺駅
令和 4 年 6 月 19 日：千葉駅、船橋駅、新浦安駅

(ウ) 青森県・道南観光 PR キャラバン南東北

◆期 日 令和 4 年 6 月 25 日：郡山駅、福島駅
令和 4 年 6 月 26 日：山形駅、仙台駅

(エ) 青森県・道南観光 PR キャラバン北海道

◆期 日 令和 4 年 7 月 4 日：札幌駅



ウ JR 主要駅内観光物産フェア等における PR 業務

JR 東日本が主催した、JR 上野駅における物産展「あおもり産直市」と連携し、青森県・道南周遊観光の PR を実施した。

◆期 間 令和 4 年 6 月 6 日～12 日：上野駅

エ 道南エリアにおける青森県・道南周遊観光 PR 業務

JR 北海道函館駅において、青森県・道南周遊観光 PR イベントを実施した。

◆期 日 令和 4 年 7 月 3 日：函館駅

オ 観光ポスター・のぼり制作業務

青森県・道南周遊観光を PR するポスターとのぼりを制作し、県内自治体・観光関係団体や道南自治体の関係施設のほか、JR 東日本盛岡支社・秋田支社管内の青森県内駅、JR 北海道函館支社管内の駅等に掲示した。

◆制作数 ポスター：1,000 枚
のぼり：1,000 枚

(3) インバウンド対策事業

① あおもりグローバルラウンジ運営事業

新型コロナウイルス感染症の影響により、アスパム 2 階のカウンターを休止し、事務局において観光案内・情報発信等を行った。

ア 県内全般の観光案内

イ チャット機能による多言語観光案内

ウ SNS を活用した多言語による情報発信

エ 県内周遊旅行商品の販売等

② 国際観光推進連絡会議の開催

インバウンド誘致など国際観光の推進に係る取組みについて、情報共有を図るとともに、課題整理・解決に向けた検討を行うため、関係者による連絡会議を開催した。

◆開催日 令和 4 年 7 月 13 日

③ 韓国誘客対策強化事業（県委託事業）

青森・ソウル線を利用する韓国からの観光客の誘客促進を図るため、大韓航空、韓国旅行エージェント等と連携して誘客宣伝事業等を実施した。

ア 韓国旅行エージェントファムツアー

(ア) 旅行エージェントファミツアー①

- ◆実施時期 令和4年10月12日～15日
- ◆訪問地域 青森市、十和田市、鱒ヶ沢町、弘前市
- ◆招聘者 韓国旅行エージェント（ゴルフ関係）3名

(イ) 旅行エージェントファミツアー②

- ◆実施時期 令和5年1月14日～17日
- ◆訪問地域 弘前市、鱒ヶ沢町、五所川原市、黒石市、青森市、八戸市、十和田市、三沢市
- ◆招聘者 韓国旅行エージェント3名、韓国メディア関係者1名、MICE主催団体関係者1名、航空会社2名

イ 韓国メディア招請

(ア) メディア招請①

- ◆実施時期 令和4年8月31日～9月5日
- ◆訪問地域 青森市、鱒ヶ沢町、深浦町、弘前市、田舎館村、十和田市
- ◆招聘者 韓国メディア関係者4名

(イ) メディア招請②

- ◆実施時期 令和4年10月30日～31日
- ◆訪問地域 八戸市、むつ市
- ◆招聘者 韓国WEBメディア1名

(ウ) メディア招請③

- ◆実施時期 令和5年1月30日～2月2日
- ◆訪問地域 青森市、黒石市、五所川原市
- ◆招聘者 韓国メディア関係者1名



ウ 韓国におけるイベント出展

(ア) オンライン・インセンティブ商談会

- ◆開催日 令和4年8月24日

(イ) 日韓交流おまつり

- ◆開催日 令和4年9月25日
- ◆開催場所 COEX 展示場（ソウル市）

エ 広告支援金の交付

韓国からの観光客の誘客拡大を図るため、青森旅行商品の販売促進に係る経費の一部を助成した。

- ◆支援商品 韓国発青森旅行商品
- ◆支援先 韓国旅行エージェント 延べ10社

オ 韓国におけるイベント出展

(ア) 在济州日本国総領事館「天皇陛下レセプション」

- ◆開催日 令和5年2月7日
- ◆開催場所 ラマダプラザ济州ホテル



カ 青森県・济州特別自治道交流事業

(ア) 子供の美術交流プログラム

- ◆開催日 令和5年3月11日
- ◆開催場所 青森県立美術館

④ 「北東北三県・北海道ソウル事務所」運営事業（県委託事業）

韓国からの観光客の誘致を推進するため開設した「北東北三県・北海道ソウル事務所」の運営に参画した。

⑤ 台湾市場における認知拡大事業（県委託事業）

台湾における本県の認知度向上を図るため、台湾現地で開催された観光イベントのプロモーショングッズを制作するなど、誘客促進に係る取組みを実施した。

(4) 受入体制整備事業

① マーケティング推進事業

観光産業の振興に係る各業務について、効率的な実施及び最大限の効果を得るため、実施内容の効果検証や改善に向けた取組みの検討を行った。

◆DMO 目標設定及び達成状況

	目標設定 (KPI) 項目	単位	2021年 目標値	2021年 実績値
ア	旅行消費額	億円	1,954	1,325
イ	延べ宿泊者数	万人泊	522	360
ウ	来訪者満足度	%	100	99.5
エ	リピーター率	%	78.0	71.1

② 「もてなしの心」運動推進事業

ア 観光ガイド推進連絡会議の開催

観光ガイド・観光ボランティアガイドに関する情報共有を図るとともに、課題整理・解決に向けた検討を行うため、観光ガイド推進連絡会議を開催した。

◆開催日 令和4年7月7日

イ 観光ガイド研修の実施

観光ガイドのスキルアップとガイド相互の情報共有を図るため、観光ガイド研修を実施した。

◆開催日 令和4年11月8日

◆場所 午前の部：青森県観光物産館アスパム

午後の部：特別史跡「三内丸山遺跡」

◆参加者数 12名



③ 観光案内所連携強化事業

ア 青森県内観光案内所連絡会議の開催

県内観光案内所間のネットワーク強化と情報共有を図り、観光客受入体制をより一層充実させることを目的として、観光案内所連絡会議を開催した。

◆開催日 令和4年5月12日

イ 青森県内観光案内所スタッフ現地研修会の開催

県内観光案内所スタッフのスキルアップと観光案内所間の情報交換や共有を図り、観光客受入体制をより一層充実させることを目的として、観光案内所スタッフ現地研修会を開催した。

◆開催日 令和4年11月14日

◆場所 深浦町総合観光案内所、白神山地・十二湖

◆参加者数 8名



ウ 東北観光案内所ネットワーク化事業への参画

東北観光案内所ネットワーク化事業へ参画し、観光案内所相互の取組みについて情報共有したほか、スタッフ向け研修会へ参加し、職員のスキルアップを図った。



④ 広域観光振興事業

ア 北東北三県観光立県推進協議会の事業への参画

北東北三県観光立県推進協議会に参加し、北東北広域による国内観光の推進を図るとともに、外国人観光客の受入態勢の整備、誘客促進及びPRに努めた。

イ 東北観光推進機構の事業への参画

東北観光推進機構の事業に参画し、広域観光の推進を図った。

⑤ 観光振興事業（県補助事業）

（公社）日本観光振興協会が全国的または重点的に実施する全国広域観光事業に対し、拠出した。

（5）青森県観光物産館観光資源紹介事業

① 青い森ホール 360度 3D デジタル映像シアター情報発信事業

青森県の四季と祭りの映像を迫力ある 360度スクリーンで上映し、本県の豊かな観光資源の魅力を臨場感たっぷりに紹介した。

クレジットカードや QR コードなどのキャッシュレス決済でも利用できるよう、対応可能な券売機の増設を行い、利便性の向上を図った。

ア 上映時間

10:00~17:15 まで（最終上映 17:00）1 日 15 回上映

イ 映像コンテンツ

（ア）3D コンテンツ

・青森祭りの魂（約 7 分）

（イ）2D コンテンツ

・Beautiful Season of Aomori SPRING（約 8 分）

・Beautiful Season of Aomori SUMMER（約 6 分）

- ・ Beautiful Season of Aomori AUTUMN (約 6 分)
- ・ Beautiful Season of Aomori WINTER (約 7 分)
- ・ 青森祭りの魂 (約 7 分)

② 季節ごとの館内装飾の実施

エントランスや 2 階 machicotoba (マチコトバ) 入口において、季節に合わせ、館内イベントと連携した装飾を行った。



③ ホームページや SNS を活用した情報発信

公式ホームページや SNS を活用して、machicotoba (マチコトバ) で開催する「週末マルシェ」や主催のイベント情報を中心に、アスパムの集客につながる情報発信を行った。

【フォロワー数】

Instagram／@aspm_official 10,285 人 (8,319 人) 対前年比：123.6%

Facebook／@aspm.aomori 3,007 人 (2,926 人) 対前年比：102.8%

Twitter／@aspmkanko 7,518 人 (6,038 人) 対前年比：124.5%

※令和 5 年 3 月 31 日時点 (カッコ内は令和 4 年 3 月 31 日時点)



Facebook



Instagram



Twitter

④ 13 階展望台情報発信事業

13 階展望台への誘客と魅力向上を図るため、本県観光マスコットキャラクター「いくべえ」のフォトスポットを設けたほか、日頃お客様から問い合わせの多い質問について情報を掲示するなど、お客様の満足度向上に努めた。



⑤ 主催イベント展開事業

ア アスパム春まつり

令和4年度のゴールデンウィークは3連休が2回あったことから、1回目の3連休では「カレーフェス」、2回目の3連休では「キッチンカーフェス」を開催し、本県の多様な「食」の魅力を紹介・宣伝した。併せて、祭り期間中には、2階 machicotoba(マチコトバ)にイスやテーブルを設置し、連休中にアスパムを訪れたお客様に憩いの場を提供した。

◆期 間 令和4年4月28日～5月8日 計10日間

◆来場者 41,283人



イ アスパム夏祭り

青森県の地場産品を一堂に集めた大物産展(32業者出店)を開催し、夏祭り期間中に本県を訪れる観光客に本県の物産と「食」を紹介・宣伝した。また、青森ねぶた・弘前ねぶた・五所川原立佞武多のミニ山車を館内に設置し、祭りのPRを行ったほか、2階 machicotoba(マチコトバ)にカフェ(40席)を特設し、来館者にレストスペースを提供した。

◆期 間 令和4年8月1日～7日 計7日間

◆来場者 41,237人



ウ あおもり肉`（にぐ）のフェスティバル+キッチンカーフェスティバル vol2

青森県の食肉文化に注目し、「青森県ならではの」の食文化の紹介と商品を販売しPRを図った。19店舗の肉などを販売するブースに加え、春イベントで好評だったキッチンカー25店舗と合わせて、全44店舗の出店者で会場を盛り上げた。

◆期 間 令和4年10月1日～2日 計2日間

◆来場者 12,140人



エ CHRISTMAS MARKET inアスパム2022

青森ベイエリアの冬季のメインイベントとして今回で5回目の開催となった。多くのお客様に冬の青森の魅力を楽しんでいただくため、大型クリスマスツリーの展示とともにドイツ製のヒュッテ（木の小屋）で青森県産食材等を使用した料理やあたたかい飲み物を販売したほか、アスパムのLEDライトアップや花火の打ち上げ等の企画を実施した。

◆期 間 令和4年12月9日～25日 計17日間

◆来場者 48,747人



オ アスパムお正月まつり

帰省や観光で来県するお客様へ向けて、アスパムテナント各店で新春初売り企画を実施したほか、県産品が当たるお楽しみ抽選会を開催し、県産品の紹介・宣伝を図った。

◆期 間 令和5年1月1日～3日 計3日間

◆来場者 6,869人（抽選会：抽選会利用者940人 抽選回数3,207回）



カ アスパム冬まつり

テナントによるお得な企画や machicotoba (マチコトバ) でのスイーツやグルメの出店等により来館者へのサービス向上を図った。また、中泊町との共催による同町の物産展を開催したほか、「金多豆蔵人形劇一座」の公演など、ファミリー層が楽しめる企画を実施し、地場産品と郷土芸能の紹介・宣伝を行った。

◆期 間 令和5年2月11日～12日 計2日間

◆来場者 17,139人



⑥ 「machicotoba (マチコトバ)」の運営

コト消費の新たな空間であるアスパム2階 machicotoba(マチコトバ)において、県内クラフト作家や飲食店の紹介・交流の場として「週末マルシェ」を開催し、カフェ・スイーツの出店やクラフトの展示販売を行った。また、6・10月には、週末マルシェの拡大版「グランマルシェ」を全館で開催し、コト消費のさらなる振興を図った。

◆実施回数及び出店者数

週末マルシェ 18回・231店舗

グランマルシェ 2回・130店舗



(6) 青森県地場セレクト運営事業

県内外からの来館者に対し、青森ならではのこだわりやストーリー性のある地場産品を紹介・宣伝し、販路拡大とPRを図るとともに、消費者の反応や改良点を生産者にフィードバックし、今後の商品開発に向けた情報提供を行った。

青森県ご当地スタンド限定色のゴールド AOMORI スタンドの企画販売や工藤パンの人気商品詰合を全国に向けてお取り寄せ販売する「工藤パンパンパン箱」など、新たな企画を通じ、地場産品の紹介・宣伝を図った。



(7) 貸会議室事業

館内の会議室を本県の観光、物産、郷土芸能、産業、文化、食などの振興につながる地域おこし事業の活動の場、若年者の雇用促進のための職業相談や各種セミナー、教育旅行で来館する学校や教育旅行団体の体験学習の会場として貸出しし、本県観光及び産業の振興に寄与した。

(8) テナント事業

青森県の主要な産業の一つであるエネルギー施策PRの展示・体験施設と雇用促進関連事業であるハローワーク関連施設やジョブカフェあおもり等を入居させ、その活動及びサービスの場を提供することにより、本県の産業の振興を図った。

(9) PRホール運営事業〔(公財)青森県市町村振興協会助成事業〕

本県の観光と産業の振興を図るため、アスパム2階において、青森県内の市町村に関する映像紹介と県内温泉地紹介コーナー、世界遺産白神山地や世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の写真パネルの展示を行い、市町村の情報や文化資源・地場産品等の魅力をPRする市町村ホール等を運営した。

2 国際交流事業

(1) 国際交流・国際協力等推進事業

① 国際交流ラウンジ管理運営事業（県委託事業）

外国人からの相談への対応その他国際交流に関する各種情報提供、日本語学習教

材や参考資料の閲覧・貸出のほか、国際交流ラウンジを中心として県民による多様な国際交流が行われるよう取り組んだ。

ア 国際交流ラウンジ運営

独立行政法人国際協力機構（JICA 東北）と国際交流事業に関して連携したほか、県民の異文化理解の機運醸成を図るため、「おしゃべりサロン」などの交流事業を実施した。

◆おしゃべりサロン開催実績

第1回 令和5年2月14日（参加者3名）

第2回 令和5年3月14日（参加者3名）



イ 外国人相談窓口運営

外国人からの各種相談に対応する「外国人相談窓口」の運営及びワンストップ相談会を開催した。

◆令和4年度相談件数実績 412件

（ア）相談体制の強化

相談体制の強化を図るため、民間の通訳サービス会社と契約し、18言語に対応できる体制としたほか、相談対応についてもすべての曜日を17時まで対応した。

【通訳相談員配置による相談体制】

言語	曜日	時間
日本語	火～土曜日	10時～17時
英語	火～土曜日	
ベトナム語	火曜日	
中国語	火・水・金曜日	
タガログ語	木・金曜日	

（イ）ワンストップ相談会の開催実績

第1回 令和4年6月12日 相談件数 1件（青森市）

第2回 令和4年10月16日 " 1件（青森市）

第3回 令和4年12月11日 " 0件（八戸市）

第4回 令和5年2月19日 " 1件（青森市）

(ウ) 出張相談会の開催実績

令和5年2月18日 相談件数 0件 (三沢市)

② 民間活動団体助成事業

地域振興に寄与するものと認められる国際活動を行う県内民間団体に対して助成金を交付し、支援を行った。

※助成額：総事業費の2分の1又は10万円以内のいずれか少ない額

◆令和4年度実績 交付3件 210千円

③ 国際交流情報発信事業

情報誌「あおり国際交流通信」の発行及びホームページ等による国際交流に係る情報発信を行った。

◆「あおり国際交流通信」の発行
年3回(6月、9月、3月)



④ 青森県ゆかりの海外在住者支援事業

青森県ゆかりの海外在住者や県内在住の家族等のために適時に連絡調整等を行った。

⑤ 国際協力推進事業等

青森県観光物産館2階国際交流ラウンジにおいて、独立行政法人国際協力機構(JICA 東北)や地元団体との連絡調整等を通して同機構の各種事業の県内受入を図った。

(2) 多文化共生推進事業

① 民間圏域拠点連携推進事業

県内圏域ごとの市町村や民間団体が力を合わせ、外国人への日本語指導や各種問合せへの対応などの多文化共生に係る取組みを担うことができるよう事業を実施した。

ア 民間圏域拠点連携推進事業

外国人技能実習生の地域での受入れを促進するため、雇用企業の理解のもと、外国人技能実習生と各地域の国際交流に取り組む団体、町内会、地元学校が参加する文化理解交流事業を実施し、圏域内の支援ネットワーク強化を図った。

◆開催日 令和4年5月29日

◆開催地 中泊町

◆参加者 約60名(内外国人12名)

イ 日本語教室起点事業(県委託事業)

県内4圏域を選定し、「交流型日本語教室を起点としたコミュニケーション支援事業」を令和3年度に引き続き実施した。

大学や日本語指導サポーター、市町村等との連携のもと日本語教室を運営し、その課題や解決策を把握しながら、そのノウハウを市町村に普及し、日本語教室への取組みを促進した。また、2月中旬から、オンライン講座を開催することで、遠隔地の学習者に対しても参加できる環境を整えた。

(ア) 交流型日本語教室の開催地及び開催実績

青森市（6回 86名）、弘前市（5回 25名）、三沢市（2回 41名）、
中泊町（8回 77名）
オンライン（7回 30名）



【弘前市】



【中泊町】

(イ) 青森県日本語教育推進会議の開催

石塚ゆかり（青森大学総合経営学部准教授）委員長と委員9名により、青森県日本語教育推進会議を3回開催し、令和5年3月に青森県日本語教育の推進に関する基本方針の策定・公表をした。

◆開催日 第1回 令和4年6月24日
第2回 令和4年12月21日
第3回 令和5年3月16日

② 外国籍児童等学習支援事業

「外国につながる児童・生徒」に係る要支援事例が発生する場合に備えて、青森県教育委員会や市町村教育委員会との協議を進め、日本語指導サポーターを派遣できる仕組みづくりとその活用を推進した。

また、令和3年度に設置した「子どものための日本語学習支援基金」を活用し、日本語能力試験等の受験料及び教材の助成を行った。

ア 各関係機関との連携

◆日本語指導が必要な外国人児童生徒担当教員等連絡協議会

第1回 令和4年5月30日（青森市）
第2回 令和4年11月20日（オンライン）

◆「多文化共生に向けた日本語指導の充実に関する調査研究」研究協議会

第1回 令和4年6月9日（オンライン）

◆NPO 法人ひろだい多文化リソースルーム

報告会並びに情報交換会 令和5年3月4日（弘前大学）

イ 日本語能力試験等の受験料及び教材の助成

◆助成実績

受験料助成 6 件、教材助成 8 件 60 冊

③ 日本語学習サポーター等養成事業

外国人等の日本語学習や生活相談等が円滑に行われるよう、学識者や圏域拠点等との連携のもとサポーターの養成を行うとともに、サポーターのレベルアップを図る研修会を実施した。

ア 日本語指導サポーター養成講座の開催

青森大学と連携し、青森大学にて養成講座を実施した。一般受講者は、青森大学の聴講生として受講可能とした。（8 講義 4 単位分）

◆登録者 9 名（うち、聴講生 2 名）

イ 「青森県日本語指導サポーター」登録者の育成・活用

「青森県日本語指導サポーター」登録者について、「外国につながる児童・生徒」に係る要支援事例にも対応できるよう、人材を育成し、人材バンクを設置した。人材バンクについては、県教育委員会や関係各大学などと共有し迅速な活用を図った。また、登録者を対象に、スキルアップ研修を実施した。

◆講座名 『これだけは知っておきたい「日本語の文法」』

◆開催日 令和4年11月12日、11月19日

◆参加者 延べ 43 名

ウ 日本語パートナー養成講座の実施

より地域に根差したサポーターを育てるために「交流型日本語教室を起点としたコミュニケーション支援事業」において活動できるサポーター（日本語パートナー）の養成を行なう「日本語パートナー養成講座」を実施した。

◆開催地及び開催実施状況

中泊町 令和4年7月 全3回講座 登録者 10 名

青森市 令和5年3月 全3回講座 登録者 18 名

④ 災害・緊急時の滞在外国人支援事業

大学や関係機関との連携を図りつつ、災害・緊急時における滞在外国人への適切な情報発信と支援体制づくりを行った。また、研修会参加者は、「災害時外国人支援情報コーディネーター研修」受講者として登録した。

◆研修会参加実績

（一財）自治体国際化協会（クレア）主催研修会（東京都） 9 月 1 名

（3）地域国際化推進事業

① 国際人財づくりと人財ネットワーク化事業

県内の大学等と連携し、青森県の国際化に寄与する人財づくりや発掘を行うとともに、ボランティア登録や紹介等を行う人財ネットワークづくりを推進した。

ア 県内在住の留学生の交流支援、通訳やホームステイ等のボランティア登録・派遣、県内在住の外国人等のネットワークづくり事業の実施

イ 国際交流通訳サポーターの活動

◆件数 3件

② 姉妹都市交流その他民間海外交流推進事業

青森県の姉妹都市等に係る交流を推進するとともに、経済交流や海外誘客に向けた県内民間団体の取組みに対して交流先の紹介、交流ノウハウの提供等の支援を行った。

〔収益事業〕

新型コロナウイルス感染症のほか、世界情勢の影響による光熱費の高騰等、依然として厳しい状況が続いていることから、貸会議室については料金改定を実施した。

また、より一層の利用拡大のため、各種の利便性の向上を図るとともに引き続き営業活動を行った。

来館者の購買意欲や満足度向上のための各種取組みを行うとともに、これまで同様建物の管理運営経費の削減等、経営の効率化を図った。

1 青森県観光物産館イベントスペース・貸会議室事業

光熱費上昇などの経費増加に対応するため、令和4年10月1日以降の受付分から貸会議室使用料金を改定し、予約システム登録先へのメール通知及びアスパムホームページ等で周知した。

会議室でのオンラインWeb会議等の利便性向上を図るため、これまで120分の時間制限があったフリーWi-Fi接続サービスを令和4年4月から時間無制限としたほか、1階飲食店と連携し、会議室利用者に対して食事の際に利用可能な「ワンドリンクサービス券」を配布した。

会議室の利用拡大のため、市内金融機関に対し会議室及び貸スペース及び主催イベント等の利用案内を行ったほか、新規開拓として会議室利用の少ない市内大手生命保険会社に対し営業活動を行った。

また、利用者に対し、利便性向上と新たなニーズを把握すべくアンケート調査を引き続き実施し、約 300 件の回答があった。

2 青森県観光物産館駐車場管理等運営事業

駐車場は、大きく一般有料駐車場・月極駐車場・大型車両専用駐車場（夜間一泊）にわかれており、いずれも収益の大きな柱となっていることから、イベント開催時や繁忙期における駐車スペース確保などにより増収を図った。

3 青森県観光物産館テナント事業

青森県産にこだわった特色ある土産品店と飲食店において、青森県の物産と食の魅力を提供した。土産品店（6 店舗）と飲食店（3 店舗）がテナントとして入居しており、テナント会と連携して、アスパム来訪者の購買意欲や満足度の向上を図るための各種取り組みを実施した。

4 旅行業運営事業

観光開発推進事業で開発された観光素材を中心に、主催旅行を軸とした旅行商品化を行い、ホームページ等で販売した。

◆造成商品数 31 商品

- ・一度は行きたい津軽の人気観光地 3 選/立佞武多の館・鶴の舞橋・高山稲荷神社
- ・「ねぶたと花火」特別鑑賞プラン
- ・奥入瀬溪流と十和田湖の美しい自然に癒される旅
- ・津軽鉄道ストーブ列車と立佞武多の館コース

ほか

令和4年度 青森県観光物産館アスパム 利用状況

単位:人・千円(税込)・%

区分	元年度	2年度	3年度	4年度	増減		備考
					4年度-3年度	4年度/3年度	
総利用者数 (人)	1,277,409	512,509	493,521	982,806	489,285	199%	新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛要請のないゴールデンウィークとなったことや夏祭りが3年ぶりに開催されたことに加え、全国旅行支援の延長などの効果により、利用者数が伸びた。
有料 入館者数 (人)	65,521	23,201	21,355	51,801	30,446	243%	空調改修工事のため13階展望台を20日間休業したものの、概ね年間を通じ有料施設が通常営業できたことや、全国旅行支援の効果もあり、観覧者数が伸び、観覧料収入も増加した。
観覧料収入 (千円)	29,364	10,425	9,444	25,181	15,737	267%	
物販・飲食店 総売上 ※直営店 含む (千円)	905,908	387,753	414,129	875,664	461,535	211%	市内での吹奏楽の東北大会や合唱の全国大会などの開催、北海道からの修学旅行の来訪など、立寄実績が前年比142%と好調に推移したことや全国旅行支援による旅行者の増加などから、利用者数が伸び売上増加につながった。
直営店 「青森県地場 セレクト」 売上 (千円)	53,642	36,265	28,873	47,948	19,075	166%	
会議室収入 (千円)	43,676	31,424	33,098	41,203	8,105	124%	4月は新型コロナウイルス感染症拡大の影響から対前年比92%となったものの、5月以降は予約キャンセルが少なくなり、通年では対前年比124%となった。光熱費や管理経費の上昇に対応するため、10月以降の予約受付分から料金を値上げした。
駐車場 全体収入 ※月極等含む (千円)	55,506	33,183	35,160	47,411	12,251	135%	月極駐車場収入が、一部契約解除があった影響で前年比94%となったものの、一般駐車場収入が来館者増加や会議室利用の回復に伴い前年比145%、夜間一泊駐車等の収入も前年比200%となったことから、駐車場収入全体では前年比135%の実績となった。